

ナイジェリアは人口2・3億人（2024世界銀行）とアフリカ最大の人口規模である。プロジェクトの建設地であるラゴスはかつての首都で最大の都市である。同国はアフリカ最大の経済規模を誇るにも関わらず、依然として他の低所得国と同様に感染症が死因の上位を占めており、同国起源および隣国からの輸入高病原性感染症のリスクが極めて高い。

ナイジェリア疾病予防センター（Nigeria Disease Control Center）は、世界保健機関（WHO）アフリカ地域事務局が策定したIDSR（Integrated Disease Surveillance and Response）戦略に基づき感染症サーベイランス・システムを構築し、地域中核検査室の計

海外建設協会

プロジェクト便り

◆ナイジェリア

疾病予防センターネットワーク検査室機能強化計画



大日本土木

一丸で危機回避し無事竣工

38施設が検査ネットワークを構築している。最終的にはすべてを目標としている。

のネットワーク検査室でナイジェリアにて課題となっているハワック検査室の多くが適切な検査施設や機材を有していない。この最優先感染症（出血性ウィルス熱、黄熱、コレラ、髄膜炎など）により、迅速かつ確実な菌性髄膜炎、はしか、インフルエンザ、エムボックス、薬剤耐性菌）を検査診断し、サーベイ

ランス・対応能力を強化することを目標としている。しかし現在、これらのネットワーク検査室の多くが適切な検査施設や機材を有していない。この最優先感染症（出血性ウィルス熱、黄熱、コレラ、髄膜炎など）により、迅速かつ確実な菌性髄膜炎、はしか、インフルエンザ、エムボックス、薬剤耐性菌）を検査診断し、サーベイ

ランス・対応能力を強化することを目標としている。しかし現在、これらのネットワーク検査室の多くが適切な検査施設や機材を有していない。この最優先感染症（出血性ウィルス熱、黄熱、コレラ、髄膜炎など）により、迅速かつ確実な菌性髄膜炎、はしか、インフルエンザ、エムボックス、薬剤耐性菌）を検査診断し、サーベイ

疾病予防センターのエントランス

日本式型枠工法採用し躯体精度向上



日本式の型枠工法を採用

り、それぞれの管理導線を考慮して計画されている。その中でも重要となる検査室区域については、基本的に実験室バイオセーフティー指針を踏まえ計画されており、バイオセーフティ対策（対バイオテロ）、気密・気流管理、中性能フィルター設置を含む高度な空調換気を賄うため、検査室は窓のないコンクリート壁で覆われ、3カ所の開口部は検査室区域への出入り口とパスボックスのみとなっている。

このコンクリート壁を含めた検査室の天井・床・壁はRC躯体直仕上げの上で、塗装および

期短縮・経費削減にもつながった。

ナイジェリアは急な通関や入国・査証ルールの変更、燃料不足、通関手続きなどが遅々として進まないことによる資機材到着遅延、同国内のテロ活動による大規模停電など、本業以外で望まない事態が頻発した。特に海上輸送資機材の遅延は同国先行案件で実に8カ月にも及んだ

貨物もあり、輸送計画を根本から検討し直し、工程に間に合わないものは空輸へ変更、コンサルタントと協議の上、現地調達可能な材料への変更といった対策を行い、工程への影響を最小限とするように資機材調達方法を調整するの到大変苦労した。

施工途中、工期内竣工も危ぶまれた場面は多々あったが、資機材調達の工夫や、日本人、エジプト人、ナイジェリア人各国のスタッフが目標に向けて一丸となり現場の進捗を確保してくれたこともあり、2025年12月に無事竣工し工期内に引き渡す事ができた。この施設がナイジェリアの感染症予防・対策に

結果、満足のできる躯体が施工でき、補修や手直しなどに費やす期間が削減できたため、工

